

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1575900194		
法人名	社会福祉法人 苗場福祉会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	新潟県中魚沼郡津南町大字芦ヶ崎乙355		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成22年11月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方々症状を理解する事に努力を続けていきたいと思っております。認知症になっても安心して、安全に過ごして頂く為にはその方に寄り沿って行く事が大切だと思いますが、その方の過去の生活歴、背景をなくしてはその方を支えるのは難しいと思います。その為にはやはり、アセスメントツールとしてセンター方式を取り入れ活用できる事が望ましいと思います。ひまわりとして現在、センター方式の活用について力を入れて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔馴染みの雰囲気のある木造の建物であり、落ち着いて過ごせる環境である。職員は、利用者一人ひとりの心身の状態に応じたケアを提供し、利用者がその人らしく生き生きと生活できるよう取り組んでいる。

開設から10年以上が経過し、その間、地域との関係づくりに地道に、積極的に取り組んでおり、地域との交流は活発である。運営推進会議を通じて災害時の協力関係づくりにも取り組んでいる。

また、母体法人は、地域で多くの高齢者福祉サービスを展開する社会福祉法人であり、法人全体としての組織体制、連携体制が強固に整えられている。職員の育成には法人本部が主体となって取り組み、各種の研修会が数多く実施されており、法人本部と各事業所の管理者・職員とが一丸となって、ともに一層のサービス向上にむけて常に努力している様子が伺えた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひまわりの理念」の中に、地域の方たちが気軽に立ち寄れるグループホームを目指すとあります。年間行事計画の中に地域の方々に参加して頂ける内容のもの組み込み行事担当者は地域の方々にも楽しんで頂けるよう交流を図っています。	理念に謳われた「気軽に立ち寄れるグループホーム」への長年の地道な取り組みにより、地域との関係が築かれている。毎年、理念および事業計画の見直しを行っており、職員間で話し合い理念の再確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、新年会やバーベキューなどを行い地域の方々との交流が図れている。また、「ひまわり通信」を配布することで地域へ向けた情報発信を行っています。	ホームの行事を地域にも案内し、多くの地域住民の参加を得ている。また、地域の方から季節の野菜を頂いたり、ホームの畑仕事を手伝ってもらうなど、活発な交流が定着している。広報紙「ひまわり通信」も、回覧方式で地域へ配布している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	津南町の認知症地域支援体制構築等推進事業に事業所として参加し、センター方式への理解を深めています。また今後事例発表を通して地域の方々へ発信していく予定です。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価だけでなく法人内のサービス評価についても報告を行っています。今年度は特に防災体制について有意義な意見交換が行え、年度末には今まで行えていなかった地域の方々に参加して頂き避難訓練を行う予定です。	地域の代表者(民生委員、区長)の参加も得て活発な意見交換を行っている。特に災害時での対応を話し合った際、ホームや併設他施設の見学会や説明会を開催してはどうかとの提案があり、それを実現して、地域の理解を深めることができた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	津南町地域支援体制構築等推進事業に参加することで、行政だけでなく他の事業所とも交流が図れています。	町担当者が運営推進会議の委員となっており、定期的に話し合いを行っている。県の補助事業である「津南町地域支援体制構築等推進事業」にも参加し、行政のほかさまざまな事業所との連携、情報共有を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会活動を通して、職員への理解を深めています。今年度はマニュアルを活用しながら勉強会を行っています。	法人の「高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会」の主催で研修会が行われており、各事業所から出席した職員が、確実に他の職員に伝達している。同委員会でマニュアルの見直しも行われている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会活動を通して、職員への理解を深めています。今年度はマニュアルを活用しながら勉強会を行っています。	職員は自身の言葉や行動が利用者の抑制に繋がっていないか、十分注意を払っている。研修やマニュアルについては、前述の身体拘束と同様の取り組みが実施されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度に関しては昨年同様まだまだ理解が乏しいのが現状となっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容の説明などにつきご家族側の納得が頂けるような丁寧な説明を心掛けています。ご家族様より苦情等頂いていないので、比較的問題がないと思われます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族さまの苦情、不満も顧客フィードバック報告書にて書面に表しています。また、お客様アンケートについても書面にてお返しし、ご要望に対し改善を図っています。	苦情に至る前の小さな要望等についても「顧客フィードバック報告書」に記録し、改善策の検討を行っている。また、法人全体で「お客様アンケート」を毎年実施し、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業部全体の職員会議や事業所のひまわり会議にて職員の意見、提案を聞く機会を設けています。もっと身近ではチーム会議にて職員より意見をきく機会となっています。	ホームの職員会議である「ひまわり会議」を毎月実施し、職員の意見や提案を把握・検討している。また、併設事業所全体での「職員会議」も月1回開催しており、各事業所からの要望が挙げられ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度として、職員個々の努力や実績、やりがいなどが仕組みとして取り入れられています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職別、職種別、勤続年数など対象別の研修が法人内・グループ内にあり開催されています。また、外部の研修については、自己啓発費用として上限3万円で補助が出ます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではグループホームの交換研修が毎月行われています。また、津南町地域支援体制構築等推進事業を通して、津南町の同業者の方と交流する機会があります。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から職員が親身になりお客様と関わり、チームとしても向き合っています。センター方式を通してお客様の安心を確保できるようにして行きたいと思っていますが、センター方式の十分な理解にはまだ至っておりません。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月の近況報告書や面会時に要望や意見を聞くことで信頼関係が築けるように努力していきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと時間を取りご家族様の思いを伺い、ご本人様の現状についても説明を聞いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のお気持ちに配慮しながら、出来ることは出来るだけして頂いて、出来ない所は支援させて頂いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	高齢化と重度化が進む中で、とても事業所だけでは支えきれない現状に直面しています。現在ご家族様とご本人の状態や今後の生活支援の仕方について必要に応じて連絡を密にとっています。	家族参加の行事を年に複数回実施し、参加を呼びかけている。また、面会にも来てもらえるよう働きかけている。利用者の重度化が進む中、今後の支援のあり方については家族と相談しながら共に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りへの参加、彼岸の仏様参り、ご家族やご近所の方の面会など、昔の自分を知っている人達が温かく迎えてくれるという事を肌で感じて頂いています。	実家への仏壇参りや、昔から行っていた床屋・美容室の利用を支援している。かつてご近所だった人が面会に来てくれることもあり、それらの関係が途切れないよう支援している。	職員の異動や退職が少なくないという状況があり、利用者が安心して暮らせるための職員との馴染みの関係構築という点から考えると影響が大きい。異動や退職が必要最小限度となり、可能な限り利用者と職員との馴染みの関係が維持されるよう、法人全体での取り組みを期待したい。
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いお客様同士は席を近くにしたり、話が出来るように職員が間に入ったりして関わり合いを持てるようにしています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くは入院退居の為病院への面会になりますが、ご家族様の意向を大切にしながら、その後の他施設へ生活の場の移行の時まで情報提供も含めてその後の経緯を見守っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、モニタリングにてご本人の意向を確認し、確認が困難な場合にはご本人の言動から検討しています。	センター方式アセスメントシートを活用し、24時間の暮らしの場面での本人の様子や言動を記録することを通して、本人の気持ちや言葉にならない感情等に気づけるよう取り組んでいる。気づきは具体的に介護計画に反映している。	
24	(9-2)	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用がまだまだ十分ではないが、センター方式の活用が十分に活かせるようになると本人本位のサービス提供が行えるようになると思います。	本人や家族からの聞き取りを行い、センター方式のアセスメントシートに情報を記録して活用しようと取り組んでいる。センター方式の活用が十分でない職員自身も感じており、現在、センター方式の研修を積み重ねているところである。	本人や家族からの話や職員の気づきのほか、在宅時に関係していたサービス事業者や昔馴染みの人等の多様な関係者に協力してもらうなど、過去の生活歴や暮らし方、人となりを知るためのより一層の取り組みに期待したい。
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化についてよく目が配られていると思います。毎日の状態についてはミーティング時に、変化についてはカンファレンスにて話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット毎のカンファレンスにて話し合いを行っています。モニタリング能力についてはまだまだ十分ではないので、管理者と計画作成担当で職員に伝えて行きたいと思っています。又、ご家族様にはお伝えし意見を頂いています。	チーム会議を定期的開催し、介護計画の実施状況の確認や支援内容の検討を行っている。全職員の意見を活かすとともに、アセスメントで把握できたり職員が気づいた本人の思い、家族の考えも踏まえて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様の状態や変わったことがあれば記録に残し、職員同士情報を共有しています。また、必要であればカンファレンス時に話し合いを行い、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の了解を得て、急なご本人様の帰宅要求や外泊などの支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様が以前よりご利用されているお店や、美容院などに行っており、利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院での担当医が決められていて、定期的な受診を受けており、健康管理に対して担当医と関係作りも出来ていると思っています。また、臨時受診時にはご家族様への報告も行っている。	協力医療機関への受診はホームで行い、それ以外の病院へは家族に受診の付添いをお願いしている。家族が付き添う場合には状況報告書を渡して医師へ適切に情報提供できるようにし、また、受診後は家族と面談を行い情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師勤務時に情報や気づきを相談し受診等のための支援に活かしている。また急変時には、併設している老健の看護師に指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には一日おきの面会や、病棟看護師よりその都度現状について情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したお客様に関しては、医師の診断や今後予想されるリスクに付き十分に話し合いを行っています。ご家族様や担当の先生との間で情報共有が十分に出来ていないとその方の人生の最後に向けた十分な支援が出来ない為、注意しました、チームとしてどう支援していくか話し合いを行っています。	開設から10年を経過する中で利用者の重度化に直面している。看取りケアについてはホームの体制を踏まえて慎重に検討すべきと考えており、ホームでの生活が困難になった場合は、本人や家族の思い、医師の判断等を踏まえながら、病院や他施設等への移行を支援している。	ホームでの生活継続が困難と判断する場合はの基準については、最近入居された方には早い段階からの説明をしているが、以前から入居している方への説明が十分に出来ておらず課題となっている。重度化や終末期の支援のあり方について、本人や家族、また、職員が段階的に考えていけるよう、状況に応じて継続的に話し合う機会を持つことが望まれる。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として感染対策委員会を通して急変時の対応等の勉強会を行っています。実践力を身につけるとまではいっていないのが現状だと思われます。	消防署の行う救急法の研修に毎年数名ずつ職員が参加している。比較的若い職員が多く、実際の緊急時の場面を経験していない場合もあり、実際に正しく対応できるか不安だと認識している職員もいる。	緊急時の対応については、とっさの場面でも適切に動くことができるよう、事故や怪我、疾病による発作など実際にホームで起こりうる事態を想定した実地訓練を定期的・継続的に行うことが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今までは非難訓練時に地域の方々が参加しご協力を頂いたことは無かったのですが、年度末には実際に駆けつけて頂ける様にご協力をお願いし準備を進めています。	夜間の想定も含めて、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議でも災害時の対応について話し合っており、地域の消防団等の協力を得た防災避難訓練の実施も予定している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛け時等周りに聞こえないような配慮をし、また馴れ馴れし過ぎる声掛け等にも注意している。	職員は、利用者の心身の状況やその場の状況に合わせた言葉や声のトーンで対応している。利用者一人ひとりの呼び方も、本人と十分に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お風呂に入りたい等、希望時に入ってもらえるように支援しています。また、食事の時間など、無理したくない時等休んで頂き、後で食べて頂くこともあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物等ご希望があった際は職員と一緒に買って買い物等して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、着る服をお客様から選んで頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けが出来る方にはお願いをしたり、食事中も会話を取り入れて楽しんで頂いています。	献立は利用者の希望を踏まえて立て、調理や片付けなども利用者一人ひとりのできることを一緒に行っている。箸や湯飲みは本人の馴染みの物を使っている。また、外食に出かけたり、一緒にお菓子を買いに行くことなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事チェック表を活用し、お客様の状態に合わせ支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行っており、磨き残しのあるかたに対しては、介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄リズムを記録から読み取り、トイレ誘導、声掛けを行うことで失敗を少なくしています。また、出来る所ご本人に確認しながらして頂いています。	利用者一人ひとりの排泄状況はこまめにチェックして、排泄の間隔やタイミングを把握してトイレ誘導を行っている。このような支援により排泄の失敗を減らし、気持ち良く生活できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂くようにしたり、好き嫌いの多い方には食物繊維のある好きな物を食べて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方に気持ち良く入浴して頂ける様、誘い方や時間を職員同士で考え、工夫しています。	入浴の時間や回数等は本人の気持ちに沿って対応し、仲の良い利用者同士で入りたいという希望にも応じている。入浴に拒否がある方には、無理強いせず誘い方やタイミングを変えるなど工夫しながら働きかけて入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる際、部屋の温度を調節したり、その方に合った対応で就寝介助をしています。また、昼休みの習慣のある方には、部屋が居間にて休んで頂ける様対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の内容や、薬板にてその方の服薬の目的、副作用などから理解を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出がお好きな方には外出の支援、習字がお得意な方には習字の提供、料理がお得意な方には料理作りの提供など、その方に合わせた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの外出希望があった際は職員同士声を掛け合い、外出できる体制を整えている。また、近くではなく行けないような場所でも外出企画を考え、出掛けられるように支援している。	天気の良い時は近隣を散歩して近所の方と交流したり、毎月、車での外出も企画し実施している。近所への買い物や理美容院への送迎等、個別の外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金をしていませんが、要望がある際は立て替えとして買い物時に購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望時にはご家族様へ電話をかけて頂いたり、希望時に切手や便せんを購入させて頂き手紙を投函させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示物などは、季節ごとに変えている。温度管理もトイレ内や浴室にもきちんと行っている。また、夜間等は混乱を招かない様適度な明るさで危険防止にも努めている。	リビングは天井の梁が見え、昔馴染みの雰囲気がある造りである。畳の小上がりには掘りゴタツがあり、利用者が寛いでいる。書道など利用者の作品も展示し、親しみやすい雰囲気づくりがされている。毎日掃除の際には天窓を開け、換気も十分にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂など、気の合った方々同士で過ごせる空間作りを行っています。座る場所を複数箇所設置しているので、お好きな場所で過ごして頂くことができます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた家具、寝具、衣類等お持ち頂いています。また、居心地のよいお部屋になるようご本人の作品を飾ったりしています。	自宅から寝具や仏壇、ぬいぐるみなど馴染みの品を持ち込んでもらっている。持ち込み品の少ない利用者に対しては、ホームでの写真を飾ったり、クリスマスのプレゼント等でクッションなどを贈り、本人と職員とで居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行して頂けるよう廊下には手すりを設けています。また、洗濯干しやたたみ、食事の盛り付けなどその方の出来る事をして頂く事で、能力維持に努めています。		